

第 2 章

国 語 科

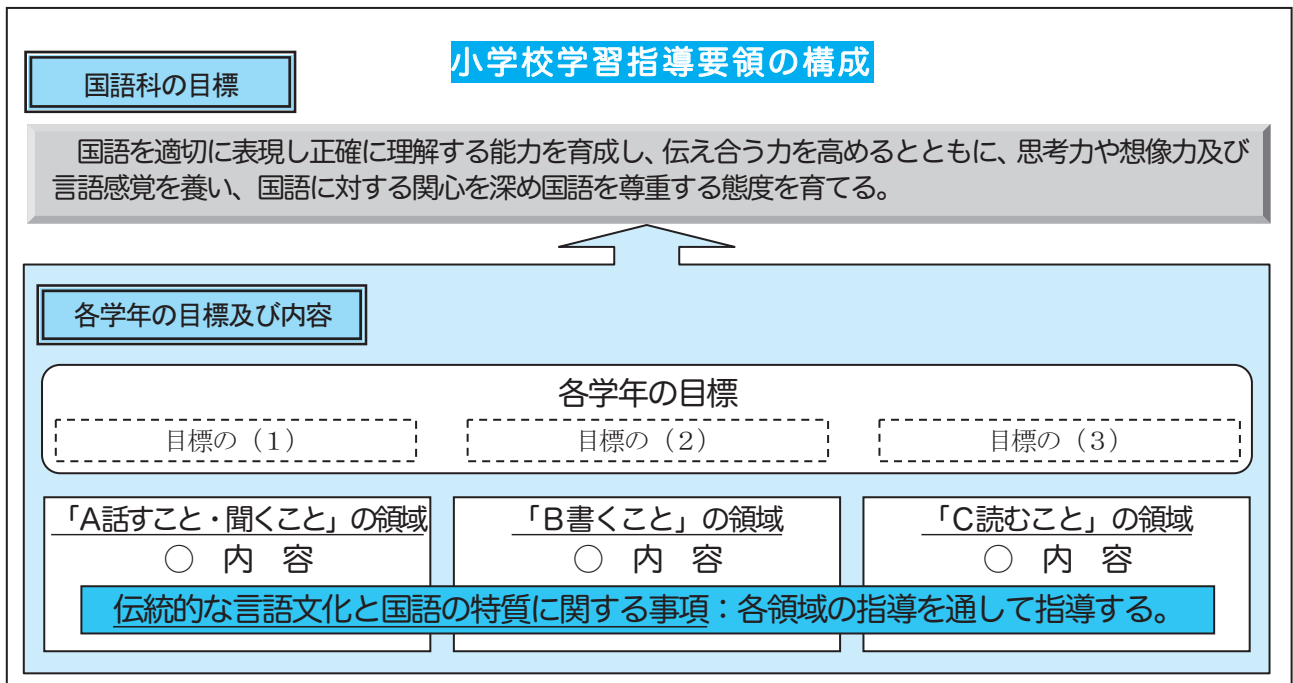
1 指導についての基本的な考え方

(1) 各領域の内容と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容とを関連させた指導

小学校学習指導要領においては、国語科の教科目標を、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」とし、この目標のもとに2学年ごとにまとめて各学年の目標及び「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の内容と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容が設定されている構成となっている。一方、中学校学習指導要領においては、第1学年と第2学年及び第3学年ごとに、各学年の目標及び各領域の内容と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容が設定されている構成となっている。この各領域の内容と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容についての指導に当たっては、次のことに留意する必要がある。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の指導を通して、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容の関連とねらいを明確にして指導する。

このことを図示すると次のようになる。



例えば、各領域の内容と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容との関連を意識した指導例を挙げると、次のようになる。

各領域の内容と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容との関連を意識した指導例

「A 話すこと・聞くこと」と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（オ（ア）修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。）との関連を意識した指導例

〔例〕第3学年及び第4学年「スピーチ」の指導例

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項との関連を意識していない指導例

教師：「〇〇さんのスピーチを聞いた感想を発表しましょう。」
 児童：「上手だった!」
 教師：「そうですね。」

児童は、主語と述語との関係など、文の構成を意識しないで発表している。

教師が、児童に主語と述語などを意識させる発問をしている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項との関連を意識した指導例

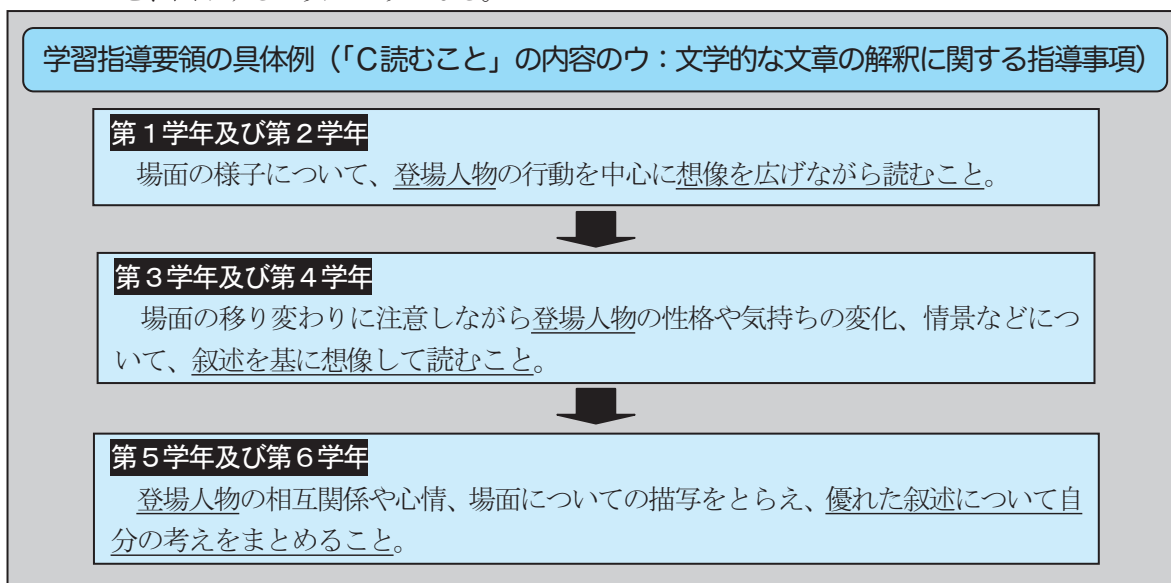
児童：「上手だった!」
 教師：「どこが、どのように上手だと思ったのですか?」
 児童：「はい。〇〇さんの取り上げた例が、話の内容に合っていたので上手だと思いました。」

(2) 国語科の学習の特質を踏まえた指導

国語科の学習の特質の一つとして、小学校、中学校ともに、指導内容が系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返して学習することを基本としていることが挙げられる。

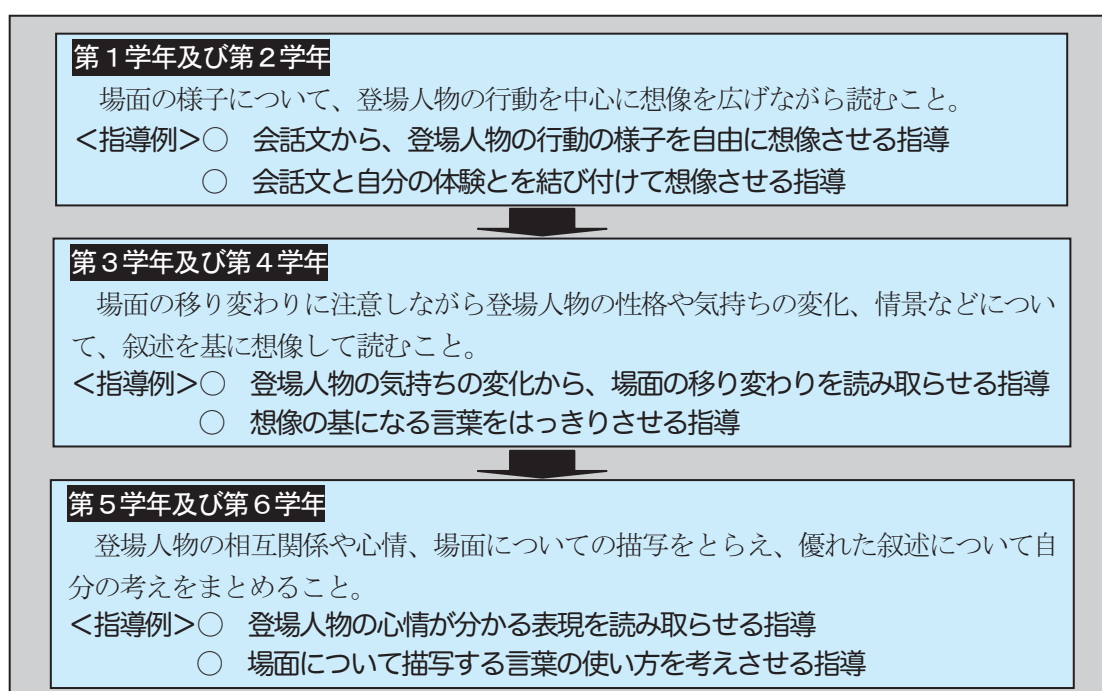
小学校学習指導要領の国語科の内容「C読むこと」の文学的な文章の解釈に関する指導事項を例にとると、第1学年及び第2学年では、場面の様子について、第3学年及び第4学年では、場面の移り変わりや情景など、第5学年及び第6学年では、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写などを読み取るというように指導事項が系統的・段階的に示されている。また、小学校学習指導要領の国語科には、どの学年においても、文学的文章の登場人物に着目して読むことに関して螺旋的・反復的に学習することについて示されている。

このことを、図示すると次のようになる。

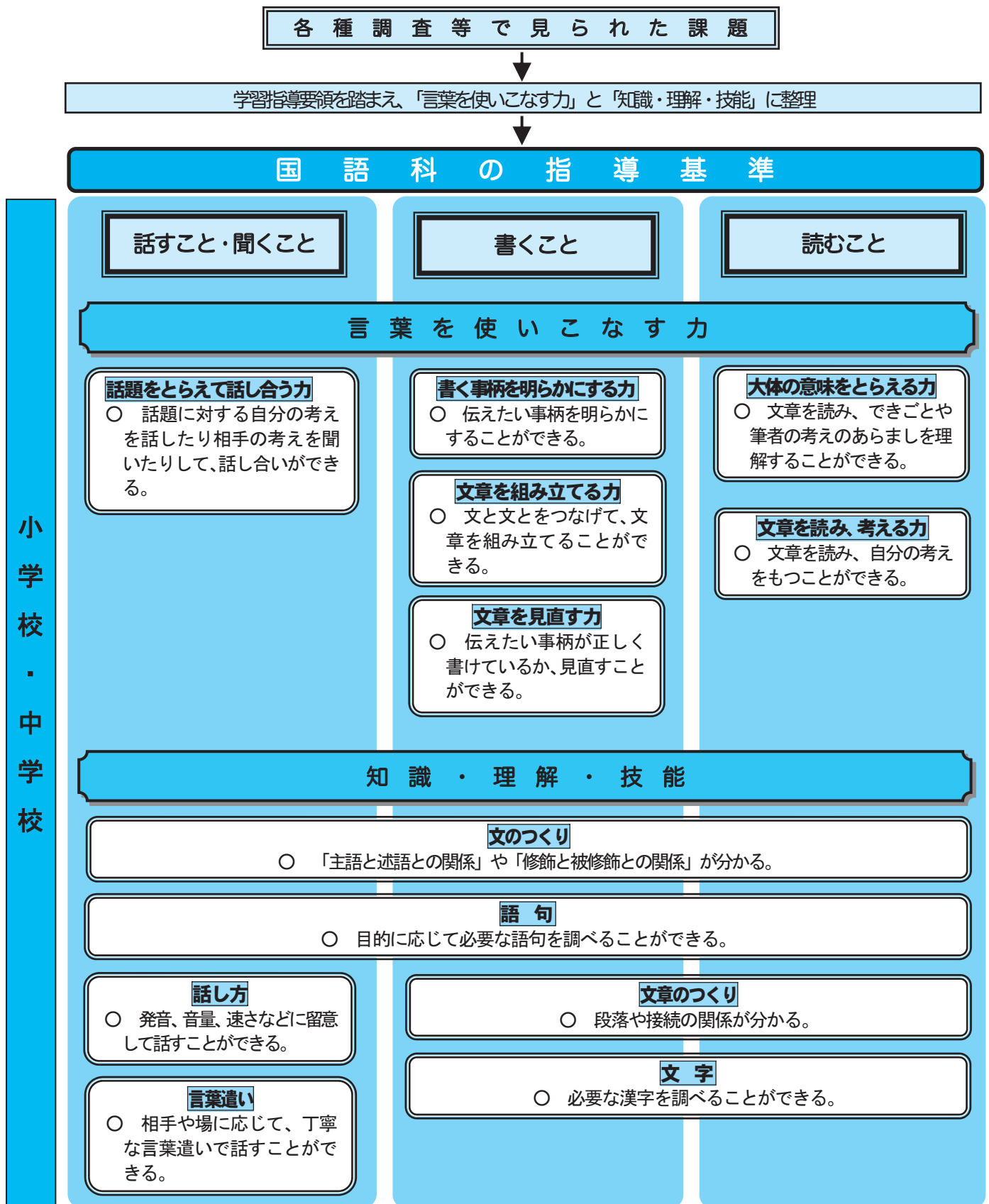


このような国語科の学習の特質を教師が理解して、学年に応じて意図的・計画的に指導を発展させていくことが大切である。

指導に当たっては、例えば、小学校において文学的な文章の解釈に関する指導については、次のように発展させていくことが考えられる。



2 指導基準の構成



3 学習指導要領との関連と段階的な指導

(1) 【話すこと・聞くこと】領域

ア 学習指導要領との関連

学習指導要領

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
話題設定や取材	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。
話すこと	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
聞くこと	エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
話し合うこと	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

学習の素地として確実に身に付けさせておく必要がある資質・能力

言葉を使いこなす力

① 話題をとらえて話し合う力

- 話題に対する自分の考えを話したり相手の考えを聞いたりして、話し合いができる。

関連付けて指導

知識・理解・技能

文のつくり

- 「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かる。

語句

- 目的に応じて必要な語句を調べることができる。

話し方

- 発音、音量、速さなどに留意して話すことができる。

言葉遣い

- 目的や必要に応じて丁寧な言葉遣いで話すことができる。

イ 「言葉を使いこなす力」の段階的な指導

① 「話題をとらえて話し合う力」を育てる段階的な指導

「話題をとらえて話し合う力」とは、話題に対する自分の考えを話したり相手の考えを聞いたりして、話し合いができることである。

その指導に当たっては、例えば、第1学年及び第2学年では、経験したことがある話題について、自分の考えをもち、伝えたい事柄を話すことができるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第1学年及び第2学年 話題を意識させる指導

学習課題 校内の好きな場所を友達に伝えよう。
ポイント 発問を児童の身近な言葉に言い換える。
T：校内で、みんなに教えたい好きな場所はありませんか。
C：あります。
T：それはどこですか。
C：校庭のすべり台のところですか。
C：保健室です。
C：校門のそばにある大きな木のところです。
T：まだ、うまく見つからない人に聞きます。校内で「いいなあ」、「きれいだなあ」と感じたり、「お気に入りだ」と考えたりしている場所はありませんか。

このように、「好きな場所」を「校内」というように限定し、児童にとって身近なところに話題を設定することを通して、伝えたい事柄を意識しやすくすることが考えられる。一方、話題をとらえることが難しい児童には、「好きな場所」を「きれいだなあと感じた場所」や「お気に入りだと考えている場所」というように児童にとって身近な言葉で言い換え、話題が身近に感じられるようにすることが大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、話題に対する自分の考えを話したり相手の考えを聞いたりして、話し合いができるようになる。さらに、中学校では、討論や議論といった、話題に対して論理的に話し合うことへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「話題をとらえて話し合う力」を活用して、生徒に話題と意見を対として考えさせ、自分の意見が話題に正対したものであるかどうか確かめながら、討論や会議を行うなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「話題をとらえて話し合う力」を育てる段階的な指導

話題をとらえて話し合う力

- 話題に対する自分の考えを話したり相手の考えを聞いたりして、話し合いができる。

<第1学年及び第2学年>

- 経験したことがある話題について、自分の考えをもつことができる。
- 自分の考えの中から伝えたい事柄を選び、話すことができる。
- 分からない点はないか、気を付けて聞くことができる。
- かわるがわる話し、分からないことをたずねたり答えたりできる。

<第3学年及び第4学年>

- 具体的な話題について、自分の考えをもつことができる。
- 自分の考えとその理由を話すことができる。
- 自分の考えと比べながら聞くことができる。
- 順序よく発表し、互いの考えを知ることができる。

<第5学年以上>

- ◎ 解決すべき問題について、自分の意見をもつことができる。
- ◎ 事実と意見とを区別して話すことができる。
- ◎ 相手の考えの理由に着目して聞くことができる。
- ◎ 発表された意見を比較して、意見をまとめることができる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

(2) 【書くこと】領域

ア 学習指導要領との関連

学習指導要領

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
課題設定・取材	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を集めること。	ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
構成	イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
記述	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。	ウ 書くこととするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、直すこと。	オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
交流	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

学習の素地として確実に身に付けさせておく必要がある資質・能力

言葉を使いこなす力

① 書く事柄を明らかにする力

- 伝えたい事柄を明らかにすることができる。

② 文章を組み立てる力

- 文と文とをつなげて、文章を組み立てることができる。

③ 文章を見直す力

- 伝えたい事柄が正しく書けているか、見直すことができる。

関連付けて指導

知識・理解・技能

文のつくり

- 「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かる。

語句

- 目的に応じて必要な語句を調べることができる。

文章のつくり

- 段落や接続の関係が分かる。

文字

- 必要な漢字を調べることができる。

イ 「言葉を使いこなす力」の段階的な指導

① 「書く事柄を明らかにする力」を育てる段階的な指導

「書く事柄を明らかにする力」とは、相手に伝えたい事柄を明らかにすることができることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年では、疑問に思ったことや感動したことなどを手がかりにして伝えたい事柄を見付けさせるようにする。指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第3学年及び第4学年 書く事柄を見付けさせる指導

学習課題 文学的な文章を読み、感想を書こう。
ポイント 児童の感想につながる発問を数通り行う。
T：この文章を読んで、ふしぎだなと感じたところはどこですか。
C1：7ページの5行目のところが、ふしぎに感じました。
T：この文章を読んで、なぜだろうと感じたところはどこですか。
C2：わたしは、7ページの5行目を、なぜだろうと感じました。

このように、児童の感想につながる発問を数通り行い、児童が感じたことを言葉として表現させ、書く事柄を見付ける手がかりをもたせることが考えられる。また、こうした手がかりを基にして、書くために必要な情報について考えさせるようにすることが大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、第5学年及び第6学年では相手に応じて、報告、説明、紹介などの視点を手がかりにして、伝えたい事柄を明らかにする指導へとつなげることができるようになる。さらに、中学校では、相手、目的、条件に応じて伝えたい事柄を明らかにすることへと発展していく。その際、「何を書いたらよいか分からない。」「何も考えが浮かばない。」という生徒に対しては、小学校で身に付けた「書く事柄を明らかにする力」を活用して、だれに対して何のために書くのかという相手意識や目的意識を明確にもたせるなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「書く事柄を明らかにする力」を育てる段階的な指導

書く事柄を明らかにする力

- 伝えたい事柄を明らかにすることができる。

<第1学年及び第2学年>

- 実際に見たことや聞いたことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。

<第3学年及び第4学年>

- 疑問に思ったことや、感動したことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。

<第5学年及び第6学年>

- 相手に応じて、報告、説明、紹介などの視点を手がかりにして、伝えたい事柄を明らかにすることができる。

<中学校>

- ◎ 相手、目的、条件に応じて、伝えたい事柄を明らかにする。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

② 「文章を組み立てる力」を育てる段階的な指導

「文章を組み立てる力」とは、文と文をつなげて、文章を組み立てることができることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年では、いくつかの文をつなげて段落をつくって書くことができるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第3学年及び第4学年 文章を組み立てる指導

学習課題 見たことと感じたことを分けて書こう。
ポイント 文のまとまりとしての段落を意識させる。
(カードを準備する)

T : 校外学習で、見たことを1枚目のカードに書き
ましょう。

C : 川に、水をきれいにする機械がありました。

C : 川で釣りをしている人がいました。

T : では、それを見て、感じたことを2枚目のカー
ドに書きましょう。

C : 川をきれいにすることはよいことだと思いま
した。

C : 川には、どんな魚がすんでいるのだろうと思
いました。

T : 2枚のカードが、うまくつながるように文章を
まとめましょう。

このように、見たことを表現する文をつくり、次にその文につなげて感じたことを書くようにして、書く事柄のまとまりを意識させながら段落をつくるようにしていくことが考えられる。その際、児童が相手にどのようなことを伝えたいのかを明確にして、書く事柄のまとまりを意識させていくようにすることが大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、第5学年及び第6学年では、段落と段落をつなげ、文章全体を組み立てて、書くことができるようになる。さらに、中学校では、相手や目的に応じて、様々に文章を組み立てて書くことへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「文章を組み立てる力」を活用して、説明、記録、手紙、報告、感想、意見などのさまざまな文章の形態に応じて、段落相互の効果的なつながりを検討するために、段落の中心となる語句や重点的に書きたい事柄を明確にさせるなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「文章を組み立てる力」を育てる段階的な指導

文章を組み立てる力

- 文と文をつなげて、文章を組み立てることができる。

<第1学年及び第2学年>

- 主語にあたる部分と述語にあたる部分お互いに対応させて、文を書くことができる。

<第3学年及び第4学年>

- いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。

<第5学年及び第6学年>

- 段落と段落をつなげ、文章全体を組み立てて、書くことができる。

<中学校>

- ◎ 相手や目的に応じて、様々に文章を組み立てて書くことができる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

③ 「文章を見直す力」を育てる段階的な指導

「文章を見直す力」とは、伝えたい事柄が正しく書けているか、見直すことができることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年では、伝えたい事柄が書けているかを見直し、間違いを正すことができるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第3学年及び第4学年 伝えたい事柄を見直させる指導

学習課題 文章の組立を考えよう。

ポイント：文章を書く前に、伝えたい事柄を確かめる。

T：自分が一番伝えたい事柄を確かめましょう。

C：（ノートを確認する。）

T：自分が伝えたい事柄とかかわりがない事柄はありませんか。

C：手紙のことについて書きたいので、ノートに書いてある宅配便のことはかかわりがないと思いました。

T：では、自分が伝えたい事柄のために、もっと調べる必要があると思うことはありませんか。

このように、文章を書く前の段階において、取材メモ等を基に自分が伝えたい事柄となっているかどうかについて、視点を明確にして見直しをさせることが考えられる。また、書いた後の段階では、文字や語句について「間違いがないかどうか」という視点から見直させるとともに、主語と述語とが正しく照応しているか、文と文とが正しくつながっているかといった視点からも見直しをさせることが大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、伝えたい事柄が正しく書けているかを見直すことができるようになる。さらに、中学校では、読む人にとって読みやすく分かりやすい文章に推敲することへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「文章を見直す力」を活用して、「読む人にとって分かりやすく表現されているかどうか。」「自分の伝えたいことが表現できているかどうか。」というように相手や目的に応じた視点を明確にして見直しをさせるなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「文章を見直す力」を育てる段階的な指導

文章を見直す力

- 伝えたい事柄が正しく書けているか、見直すことができる。

<第1学年及び第2学年>

- 伝えたい事柄が書けているか、自分の書いた文を読み返すことができる。

<第3学年及び第4学年>

- 伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。

<第5学年以上>

- ◎ 伝えたい事柄が書けているか確かめ、文章の組立を改めることができる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

(3) 【読むこと】領域

ア 学習指導要領との関連

学習指導要領

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
音読	ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
効果的な読み方			イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説明的な文章の解釈	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
文学的な文章の解釈	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
自分の考えの形成・交流	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
読書	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

学習の素地として確実に身に付けさせておく必要がある資質・能力

言葉を使いこなす力

① 大体の意味をとらえる力

- 文章を読み、できごとや筆者の考えのあらましを理解することができる。

② 文章を読み、考える力

- 文章を読み、自分の考えをもつことができる。

関連付けて指導

知識・理解・技能

文のつくり

- 「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かる。

語句

- 目的に応じて必要な語句を調べることができる。

文章のつくり

- 段落や接続語の役割が分かる。

文字

- 必要な漢字を調べることができる。

イ 「言葉を使いこなす力」の段階的な指導

① 「大体の意味をとらえる力」を育てる段階的な指導

「大体の意味をとらえる力」とは、文章を読み、できごとや筆者の考えのあらましを理解することができることである。

その指導に当たっては、例えば、第5学年及び第6学年では、文学的な文章における人物の行動や心情の変化、説明的な文章における筆者の考えとその理由を文章全体からとらえさせるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第5学年及び第6学年

人物の行動を読み取り、心情をとらえさせる指導

学習課題 文学的な文章を読み、人物の心情をとらえよう。

ポイント：登場人物の心情を、場面の様子を基にしてとらえる。

T：この場面では、どのような様子が書かれていましたか。

C：この場面では大造じいさんが残雪をつかまえるための準備の様子が書かれていました。

C：もう少し詳しく言うと、大造じいさんが残雪をつかまえるために、工夫を凝らしている様子が書かれていました。

T：どこに、そのように書かれていましたか。

C：75ページにタニシをたくさん取って、大造じいさんが工夫を凝らしているところが書かれています。

T：では、大造じいさんは、どうして、そのような準備をしていたのですか。

— 椋嶋十「大造じいさんとがん」より —

このように、登場人物の行動を叙述に即して押さえ、行動の理由を意識させながら心情を想像させることが考えられる。その際に、文章全体から登場人物の行動の変化をとらえさせることによって、登場人物の心情の変化にも気付くことができるようにすることが大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、第5学年及び第6学年では、人物の行動や心情の変化、筆者の考えとその理由などをとらえる指導へとつなげることができるようになる。さらに、中学校では、文章全体から、主題について考えたり、要旨をとらえたりすることへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「大体の意味をとらえる力」を活用して、文章の中心的内容をとらえさせるなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「大体の意味をとらえる力」を育てる段階的な指導

大体の意味をとらえる力

- 文章を読み、できごとや筆者の考えのあらましを理解することができる。

<第1学年及び第2学年>

- 正しく行をたどり、文章全体を読むことができる。

<第3学年及び第4学年>

- 人物の行動に基づいて場面の様子をとらえることができる。
- それぞれの段落に共通する語句をとらえることができる。

<第5学年及び第6学年>

- 人物の行動や心情の変化をとらえることができる。
- 筆者の考えとその理由をとらえることができる。

<中学校>

- ◎ 文章の中心となる内容をとらえる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

② 「文章を読み、考える力」を育てる段階的な指導

「文章を読み、考える力」とは、文章を読み、自分の考えをもつことができることである。

その指導に当たっては、例えば、第5学年及び第6学年では、文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつことができるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第5学年及び第6学年 自分の考えの理由を明らかにさせる指導

学習課題 説明的な文章を読み、自分の考えをもつ。
ポイント：自分の考えを、筆者の意見を基にせよとさせる。

T：この文章で、筆者が一番伝えたいことは、何ですか。

C：筆者は、平和は大切だと伝えたいのだと思いました。

T：では、筆者の意見に対して、あなたはどのように考えたのですか。

C：わたしたち、一人一人が、平和を大切にしようと思うことが大切だと思いました。

T：どうしてそのように考えたのですか。

C：84ページに、「戦争は人の心の中で生まれる」という言葉があって、「そのとおりだ」と感じたからです。

T：なるほど、では、違う考えの人はいますか。
— 大牟田稔「平和のとりでを築く」より —

このように、文章から読み取った事柄を基にして、自分の考えをもたせ、考えた理由を明らかにすることが考えられる。その際に、考える対象となる事柄を明らかにすることが大切である。<例>では、筆者の考えに対する自分の考えを示している。「何を」という考える対象となる事柄を明らかにすることによって、児童は「どのように考えたのか」という考えをもつことができ、「どうして」という理由を明らかにすることもできるようになる。

このような指導を段階的に行っていくことによって、第5学年及び第6学年では、文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもたせる指導へとつなげることができるようになる。

さらに、中学校では、文章を読み、その善悪、美醜、是非などについて考えをもつことへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「文章を読み、考える力」を活用して、自分の体験等と比較させつつ根拠の明らかな意見を発表させるなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「文章を読み、考える力」を育てる段階的な指導

文章を読み、考える力

- 文章を読み、自分の考えをもつことができる。

<第1学年及び第2学年>

- 文章を読み、好きなところやおもしろいところを見付けることができる。

<第3学年及び第4学年>

- 文章を読み、自分の経験などと比べながら考えをもつ。

<第5学年及び第6学年>

- 文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。

<中学校>

- ◎ 文章を読み、その善悪、美醜、是非などについて考えをもつ。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

(4) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

ア 学習指導要領との関連

学習指導要領

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
伝統的な言語文化	(7) 昔話や雑話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。	(7) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (4) 長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。	(7) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (4) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
言葉の働きや特徴	(7) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (4) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 (7) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	(7) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (4) 漢字と仮名を用いた表記などに興味をもつこと。	(7) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (4) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。
表記	(2) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文中で正しく使うこと。 (4) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方理解して文章の中で使うこと。	(9) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 (2) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。	(9) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
言葉の特質や決まり		(4) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 (6) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。	(2) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに興味をもつこと。 (4) 文章の中の語句と語句との関係を理解すること。 (6) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。
構成	(4) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。	(4) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 (7) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	(4) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。
遣い	(4) 敬体で書かれた文章に慣れること。		(7) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。
工夫			(7) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
文字	仮名	(7) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	(7) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。
	漢字	(4) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 (7) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	(4) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 (7) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
	文学		(9) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

学習の素地として確実に身に付けさせておく必要がある資質・能力

知識・理解・技能

① 文のつくり

- 「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かる。

② 文章のつくり

- 段落や接続の関係が分かる。

③ 語句

- 目的に応じて必要な語句を調べることができる。

④ 文字

- 必要な漢字を調べることができる。

⑤ 話し方

- 発音、音量、速さなどに留意して話すことができる。

⑥ 言葉遣い

- 相手や場に応じて、丁寧な言葉遣いで話すことができる。

イ 「知識・理解・技能」の段階的な指導

① 「文のつくり」についての段階的な指導

「文のつくり」とは、「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年においては、主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、文の構成などに注意して、話したり書いたりさせるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第3学年及び第4学年 文のつくりについて確かめさせる指導

学習課題 くわしくする言葉について考えよう。

ポイント：主語と述語を確認する。

(児童に「食べました。」と提示する。)

T：この言葉では、伝わらないことは何ですか。

C：だれが食べたのか分かりません。

T：「私は、食べました。」これで伝わりますか。

C：何を食べたのか分かりません。

T：「私は、ハンバーグを食べました。」これで伝わりますか。

C：いつ、どこで食べたのか分かると、もっといいと思います。

T：伝えるために必要な事柄がいくつか出てきましたね。一緒に整理してみましょう。はじめに、何が必要でしたか。

C：「だれが」という部分が必要でした。

このように、実際の文に基づき、伝えるために必要なことや主語と述語との関係などについて児童に具体的に考えさせるようにすることが考えられる。また、文のつくりとして必要なことを考え整理することで、文のつくりについての理解を深め、実際の表現への意欲を高めることも大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かるようになる。さらに、中学校では、「文のつくり」についての知識・理解・技能を活用して、主語と述語との関係や修飾語、接続語、独立語などの文の成分の役割やその関係について理解することへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「文のつくり」についての知識・理解・技能を活用して、文の成分について学習する場面において、主語と述語との関係を確認させたり、説明的な文章を読む場面において、述語に着目させて筆者の意見と事実とを区別させたりするなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「文のつくり」についての段階的な指導

文のつくり

- 「主語と述語との関係」や「修飾と被修飾との関係」が分かる。

<第1学年及び第2学年>

- 主語に当たる部分と述語に当たる部分を互いに対応させて、話したり書いたりできる。

<第3学年及び第4学年>

- 修飾と被修飾との関係や文の構成に注意して、話したり書いたりできる。

<第5学年以上>

- ◎ 文のつくりについての知識・理解・技能を繰り返し確認し、話したり書いたりすることができる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

② 「文章のつくり」についての段階的な指導

「文章のつくり」とは、段落や接続の関係が分かることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年では、段落についての指導を重点的に行うことにより、一つの内容を表す文のまとまりとしての段落を理解させるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

＜例＞第3学年及び第4学年 文のまとまりを考えさせる指導

学習課題 段落に気を付けて場面の様子を読もう。

ポイント：内容に着目して段落をとらえる。

(形式的な段落を示しておく。)

T：ここに書かれているいくつかの文は、まとめる
とどんなことを表していますか。

C：まめたが、じさまにあまえてばかりいること
について書かれています。

T：では、次に書かれている部分ではどうですか。

C：まめたが、いくじがない様子について書かれて
います。

T：では、今日学習する場面は、いくつかのまとまり
になっていますか。

— 斎藤隆介「モチモチの木」より —

このように、実際の文に即して、場面の様子や登場人物の行動の様子を基にして、意味的なまとまりとしての文のまとまりについて具体的にとらえさせることが考えられる。また、書いて表現する場面において、自分が伝えたい事柄について、いくつかの文をまとめて表現することができるかどうかを考えさせることも大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、第5学年及び第6学年では、文章はいくつかの段落がつながってできていることを理解することができるようになる。さらに、中学校では、文章によって、様々な段落のつながり方が分かることへと発展していく。その際、「文章のつくり」についての知識・理解・技能を活用して、段落と段落とのつながりとその効果について考える場面において、接続語について確認したり、意見文を書く場面において、段落に着目して推敲したりする指導を行うなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「文章のつくり」についての段階的な指導

文章のつくり

- 段落や接続の関係が分かる。

＜第1学年及び第2学年＞

- いくつかの文で、一つの内容を表すことができることに気付く。

＜第3学年及び第4学年＞

- 段落は、いくつかの文が集まって一つの内容を表していることが分かる。

＜第5学年及び第6学年＞

- 文章は、いくつかの段落がつながってできていることが分かる。

＜中学校＞

- ◎ 文章によって、様々な段落のつながり方が
あることが分かる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、
つながりのある指導内容である。

③ 「語句」についての段階的な指導

「語句」とは、目的に応じて必要な語句を調べることができることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年では、辞書の使い方を学習するのに合わせて、語句の意味や使い方を調べることができるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

＜例＞第3学年及び第4学年 語句を調べて結果を評価させる指導

学習課題よりよい表現にするために、語句を調べよう。

ポイント：語句を調べて、以前と変わった点とその効果について気付く。

T：先ほど、「進む」という語句の意味を調べていましたが、何か分かりましたか。

C：「進む」という言葉には、たくさんの意味があることが分かりました。

T：それで、調べた言葉を使って、どんな文にしましたか。

C：はじめは、「運動会の進行係で全体を進める仕事をしました。」と書いていたのですが、「運動会の進行係で、それぞれの種目を順序良く進める仕事をしました。」と直しました。

T：それは、どうしてですか？

C：はじめのものだと、全員を行進させたようにも読めるからです。

T：なるほど、確かに分かりやすくなりましたね。

「語句」についての段階的な指導

語句

- 目的に応じて必要な語句を調べることができる。

＜第1学年及び第2学年＞

- よく分からない語句を見付け、たずねることができる。

＜第3学年及び第4学年＞

- 語句の意味や使い方を調べることができる。

＜第5学年及び第6学年＞

- 語句の意味や使い方を調べることが、習慣として身に付いている。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

このように、語句を調べた結果として表現にどのような変化があったかという評価を適切に行い、よりよい表現になったという実感を児童にもたせるようにすることが考えられる。その際に、いつでも語句を調べることができるように辞書を手元に置いておくといった環境的な配慮も大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、目的に応じて必要な語句を調べることができるようになる。さらに、中学校では、複数の語句を関連付けて語彙として拡充していくことへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「語句」についての知識・理解・技能を活用して、必要な語句を調べたり、似た意味や同じ意味をもつ語句による言い換えを意識させることで語句のまとまりとしての語彙について考えさせたりするなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

④ 「文字」についての段階的な指導

「文字」とは、必要な漢字を調べることができることである。

その指導に当たっては、例えば、第1学年及び第2学年では、分からない漢字を見付けて、たずねることができるようにする。その際、分からない漢字をそのままにせず、理解しようとする態度も含めて指導する。

第3学年及び第4学年では、辞書を利用して、分からない漢字を調べることができるようにする。その際、辞書をいつでも活用できるように環境を整え、分からない漢字をいつでも調べることができるように指導する。

第5学年及び第6学年では、「へん」や「つくり」の学習を踏まえ、文脈に即して分からない漢字の意味を類推できるようにする。その際、類推するだけでなく、後に辞書を利用して漢字の意味を確かめるように指導する。

中学校では、日常的に漢字を調べ、漢字を積極的に使用することを習慣として身に付けさせる。その際、小学校で身に付けた「文字」についての知識・理解・技能を活用して、学年別配当漢字の中で、同じ「へん」をもつ漢字のペアは何通り作ることができるかを探したり、学習した漢字を用いて複数の短文を作ったりするなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

このような指導を段階的に行っていくことによって、必要な漢字を速やかに調べることができるようになる。

「文字」についての段階的な指導

文字

- 必要な漢字を調べることができる。

<第1学年及び第2学年>

- 分からない漢字をたずねることができる。

<第3学年及び第4学年>

- 分からない漢字を調べることができる。

<第5学年及び第6学年>

- 分からない漢字の意味を「へん」や「つくり」などから、類推することができる。

<中学校第1学年>

- 漢字を調べることが、習慣として身に付いている。

⑤ 「話し方」についての段階的な指導

「話し方」とは、発音、音量、速さなどに留意して話すことができることである。

その指導に当たっては、例えば、第3学年及び第4学年では、聞き取りやすい音量や聞き取りやすい速さを意識して話すことができるようにする。

指導例を挙げると、次のとおりである。

<例>第3学年及び第4学年 話し方を考えさせる指導

学習課題 話す音量や速さについて考えよう。

ポイント 具体的な場面に即して、話し方を考える。

T：相手と二人で話すときと、クラスみんなに話すときとでは、声の大きさはどのように変えらるとよいでしょう。

C：二人で話すときは小さくても聞こえるけれど、クラスみんなの前で話すときは、大きい方が聞きやすいです。

T：では、話す速さについてはどうですか。

C：二人で話すときは、少し速くても、すぐに聞き返せるからいいですが、クラスみんなの前で話すときは、みんなが聞き返すことになるからゆっくりの方がいいと思います。

T：では、確かめてみましょう。

このように、実際に話す場面を想定し、聞き手が聞き取りやすい声の大きさや話す速さについて具体的にとらえさせることが考えられる。その際、場面に応じた声の大きさや話す速さを考えることができるように、場面ごとに聞き手に評価させ、発声や音量について試行錯誤させることが大切である。

このような指導を段階的に行っていくことによって、発音、音量、速さなどに留意して話すことができるようになる。さらに、中学校では、声の大きさや話す速さ、間といったことを調節するだけでなく、その効果を考えることへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「話し方」についての知識・理解・技能を活用して、例えば、マイクを通して話すときの声の大きさと、肉声で学級全体に伝えるときの声の大きさについて検討し、聞き手にとって印象深くなるような話し方を工夫するなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「話し方」についての段階的な指導

話し方

- 発音、音量、速さなどに留意して話すことができる。

<第1学年及び第2学年>

- 姿勢や口形に気を付けて明瞭な発音で話すことができる。

<第3学年及び第4学年>

- 学級全体に話すときと、グループで話すときの音量、速さに注意して話すことができる。

<中学校>

- ◎ 話す音量や速さ、言葉の調子や間の取り方に注意して話す。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

⑥ 「言葉遣い」についての段階的な指導

「言葉遣い」とは、相手や場に応じて、丁寧な言葉遣いで話すことができることである。

その指導に当たっては、例えば、第1学年及び第2学年では、普通の言葉遣いと丁寧な言葉遣いとを比べさせる。その際、実際に普通の言葉遣いと丁寧な言葉遣いとを聞き比べさせるなど、その違いに気付かせる場を設定することが考えられる。

第3学年及び第4学年では、実際に相手に話す具体的な場を設定し、丁寧な言葉で発表させる。その際、丁寧な言葉で話すべき相手を明確に意識させ、発表させることが考えられる。

第5学年及び第6学年では、意識して敬語を用いて発表させる。その際、日常よく使われている敬語について児童に想起させ、敬語を用いる場面について検討させるといったことが考えられる。

このような指導を段階的に行っていくことによって、相手や場に応じて、丁寧な言葉遣いで話すことができるようになる。さらに、中学校では、言葉遣いについて、小学校で学習した内容や日常生活で経験的に学んだ事柄などの、生徒が個別に有している知識を体系的に整理し、定着させることへと発展していく。その際、小学校で身に付けた「言葉遣い」についての知識・理解・技能を活用して、敬語として語句を体系付け、整理し様々な場面で活用するなど、小学校における指導との連続性を大切にして活動させるように留意する。

「言葉遣い」についての段階的な指導

言葉遣い

- 相手や場に応じて、丁寧な言葉遣いで話すことができる。

<第1学年及び第2学年>

- 普通の言葉遣いと丁寧な言葉遣いとの違いに気付く。

<第3学年及び第4学年>

- 相手や場に応じて、丁寧な言葉で話すことができる。

<第5学年及び第6学年>

- 相手や場に応じて、日常よく使われる敬語を用いて話すことができる。

<中学校>

- ◎ 話し言葉と書き言葉との違いについて理解し、適切に使って話すことができる。

破線で囲んだ箇所は、「指導基準」には含まないが、つながりのある指導内容である。

4 指導基準を活用した学習指導

(1) 小学校第1学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (30)	聞こえるように話そう (5) 話・聞① 言語①②⑤		かわるがわる話そう (5) 話・聞① 言語①⑤⑥	
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (100)	みつけたことを書いてみよう (20) 書① 言語①④		書いて教えよう (20) 書② 言語①③④	
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (100)	声に出して読もう (20) 読① 言語②④		読んで分かったことを見つけよう (20) 読① 言語②③④	
①文のつくり ②語句 ③文章のつくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (50)			
		平仮名及び片仮名の指導 (25) 言語④			

② 指導計画

※ここでは、【話すこと・聞くこと】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
聞こえるように話そう	・あいさつの言葉を知り、はっきりとあいさつができる。	★			★
かわるがわる話そう	・友達のことをもっと知るために一对一の対話に意欲をもち、楽しく聞いたり話したりする。 ・話題を意識しながら、尋ねたり質問に答えたりする。 ・大事なことを落とさずに聞く。	★			★
しっかり聞いて伝えよう	・伝えることを選ぶことができる。 ・大事なことを落とさずに聞く。 ・伝えることを相手にわかるように話す。	★			★
見つけた言葉を友達に伝えよう	・身のまわりのものから、伝えたい言葉を見付ける。 ・見つけた言葉が相手に伝わるように話す。	★			★
宝物をしょうかいしよう	・知らせたい宝物を見つける。 ・宝物が何か分かるように紹介する。 ・くわしく知りたいことは尋ねる。	★			★
1年間のまとめをしよう	・1年間でできるようになったことを見付ける。 ・できるようになったことを伝え合う。	★			★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
しっかり聞いて伝えよう(5) 話・聞① 言語①⑤⑥	見つけた言葉を友達に伝えよう(5) 話・聞① 言語②⑤⑥	宝物をしょうかいしよう(5) 話・聞① 言語①②⑤⑥	1年間のまとめをしよう(5)			
文を書いて知らせよう(20) 書③ 言語①③④	思ったことを書いて知らせよう(20) 書①②③ 言語①③④	分かりやすく書こう(20) 書①②③ 言語①③④				
場面の様子を想像して読もう(20) 読①② 言語②③④	登場人物の様子を思い浮かべよう(20) 読①② 言語②③④	順序を考えて読もう(20) 読①② 言語②③④				
第1学年の配当漢字の指導(20) 言語④						
文のつくりについての指導(5) 言語①						

活用できる東京ミニマム	主な学習活動	備考
段階的な指導の内容		
・経験したことがある話題について、自分の考えをもつことができる。【話・聞】	・あいさつの言葉を整理して、相手に伝わるようにあいさつをする。	1対1 グループ
・かわるがわる話し、分からないことをたずねたり、答えたりできる。【話・聞】 ・分からない点はないか、気を付けて聞くことができる。【話・聞】 ・主語にあたる部分と述語に当たる部分を互いに対応させて話すことができる。【言語】	・尋ねたいことをカードにまとめる。 ・となりの相手と対話をする。 ・話をつなげる工夫を考える。 ・いろいろな相手と対話をする。	1対1
・分からない点はないか、気を付けて聞くことができる。【話・聞】 ・姿勢や口形に気を付けて明瞭な発音で話すことができる。【言語】	・聞き方に気を付け、伝言ゲームをする。 ・伝える内容を相手が分かるように話す。	グループ
・経験したことがある話題について、自分の考えをもつことができる。【話・聞】 ・自分の考えの中から伝えたい事柄を選び、話すことができる。【話・聞】	・身のまわりを中心に、言葉探しをする。 ・見付けた言葉を相手に分かるように話す。	1対複数
・分からない点はないか、気を付けて聞くことができる。【話・聞】	・1対1で紹介の練習をする。 ・宝物発表会を開き、紹介するものを伝え合う。	1対1 グループ
・かわるがわる話し、分からないことをたずねたり、答えたりできる。【話・聞】	・1年間のできるようになったことを見付ける。	1対多数

イ 指導事例

第1学年 単元名 「かわるがわる話そう」

1 単元名 「かわるがわる話そう」

2 単元の目標

- 対話に意欲をもち、楽しく聞いたり話したりする。
- 話題を意識しながら、尋ねたり質問に答えたりする。
- 大事なことを落とさず聞く。

3 評価規準

- 話の内容に興味をもち、進んで友達との対話をしようとしている。（関心・意欲・態度）
- 話題に沿って尋ねたり、相手の質問に答えたりしている。（話す・聞く能力）
- 大事なことを落とさずに、最後まで聞いてから話している。（話す・聞く能力）
- 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付く。（言語についての知識・理解・技能）

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【話すこと・聞くこと】「話題をとらえて話し合う力」を育てる段階的な指導

○かわるがわる話し、分からないことをたずねたり答えたりできるよう指導する。

「話題をとらえて話し合う力」を育てるために、低学年のうちから話題と相手を明確にさせ、話し合いを続けることで詳しく知ることができるということを理解させたい。そのため、本単元では、身近な話題を教師が提示し、決まった相手との対話活動を取り入れる。

児童には、相手と「かわるがわる話す」ことを意識させながら、「分からないことをたずねさせたり、質問に答えさせたり」しながら、話をつなげていくことができるように支援する。

5 指導計画（全5時間）

次時	主な学習活動	東京ミニマムとの関連
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話題を確認し、尋ねたいことや聞きたいことをカードに書く。 ・ 対話の例を聞いて対話の仕方を理解する。 ・ 隣の相手と対話を行う。 ・ 感想を発表する。 ・ 次時の話題を確認し、尋ねたいことをカードに書く。 	☆「話のバトン」をやり取りしながら対話することを教師がやって見せ、かわるがわる話すことを意識させる。 「経験したことのある話題について、自分の考えをもつことができる（P15）」と関連する。
第二次	③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてをつかみ、対話のやり方を確認する。 ・ モデルを聞いて話をつなげるための工夫を考える。 ・ 再度違う相手と対話を行う。 ・ 本時を振り返り、感想を述べる。 	☆うなずきやあいづちをしながら話を受け、たずねたり、答えたりする大切さに気付かせるために対話のモデルを提示する。 「かわるがわる話し、分からないことをたずねたり、答えたりできる。（P15）」と関連する。

6 本時の学習指導

(1) ねらい

話をつなげたり、ふくらませたりするための方法を知り、話題からそれずに楽しく話のやり取りをする。

(2) 展開

主な学習活動・予想される児童の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>はなしをして、ともだちのことをくわしくしろ。</p> </div> <p>2 対話のやり方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右側の人から対話を始める。 ・話の区切りで「話のバトン」を渡す。 ・合図があったら対話をやめ、交代する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3 教師のモデルを聞いて話をつなげるための上手な聞き方を考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルを聞いて気付いたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><モデル提示例></p> <p>(1) 相手の話を聞こうとしていない例</p> <p>(2) 相手の話の途中で割り込み、最後まで聞こうとしていない例</p> <p>(3) うなずきやあいづち、復唱しながら相手の話を受け止め、尋ねたり感想を言ったりしている例</p> </div> <p>4 二人組になって対話をする。</p> <p><話題例></p> <p>家に帰ってからすることについて</p> <p><尋ねてみたいことの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビは見ますか？ <li style="padding-left: 20px;">どのような番組が好きですか？ ・夜ごはんは何時ぐらいに食べますか？ <li style="padding-left: 20px;">ご飯を食べた後は何をしていますか？ <p>5 本時を振り返り、感想を述べあう。</p> <p><児童の反応例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん話げできた。 ・かわるがわる話せて楽しかった。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>話題をとらえて話し合う力</p> <p>「かわるがわる話し、分からないことをたずねたり、答えたりできる」を活用した例</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ポイントかわるがわる話すモデルを示す</p> <p>(1) 「相手の話を聞こうとしていない」モデル</p> <p>A：今から、私が家に帰ってからすることについて話します。</p> <p>B：話しているいいよ。あちらの話を聞いているから。</p> <p>A：……。</p> <p>(2) 「相手の話の途中で割り込み、最後まで聞こうとしていない」モデル</p> <p>A：今から、私が家に帰ってからすることについて話します。</p> <p>B：はい。</p> <p>A：二つ言います。一つ目は、宿題をやることです。二つ目は……。</p> <p>B：え、さいしょに宿題をやるの？</p> <p>すごいね。ぼくはね、まず遊びに行くんだ。それからね……。</p> <p>(3) 「あいづちを打ちながら、たずねている」モデル</p> <p>A：今から、私が家に帰ってからのお手伝いについて話します。</p> <p>B：はい。</p> <p>A：二つ言います。一つ目は、宿題をやることです。二つ目は、洗濯物をたたむことです。</p> <p>B：すごいね。家に帰ってからお手伝いをしているんだね。他にお手伝いはしていますか？</p> <p>A：他には、料理のお手伝いをします。</p> </div>

(2) 小学校第2学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (30)	春の言葉を見付けて話そう(5) 話・聞① 言語①②⑤		みんなの前で話そう(5) 話・聞① 言語①⑤⑥	
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (100)	何がどうしたのか書いてみよう(20) 書① 言語①④		様子や形が分かるように書こう(20) 書①② 言語①③④	
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (100)	様子を想像して読もう(20) 読① 言語①②④		順序を考えて読もう(20) 読① 言語②③④	
①文のづくり ②語句 ③文章のづくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (50)			
語句、話し方及び言葉遣いの指導 (25) 言語②⑤⑥					

② 指導計画

※ここでは、【話すこと・聞くこと】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
春の言葉を見付けて話そう	・知らせたいことを見付け、相手に分かるように話すことができる。	★			★
みんなの前で話そう	・事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話す。 ・大事なことを落とさずに、興味をもって聞く。	★			★
自分の夢を話そう	・伝えることを選ぶことができる。 ・大事なことを落とさずに聞く。 ・話題を意識しながら、尋ねたり質問に答えたりする。	★			★
見てきたことを話そう	・経験したことから、話す事柄を見付ける。 ・見てきたことが、相手に分かるように話す。	★			★
様子が分かるように話そう	・様子が分かる言葉を見付ける。 ・様子を相手が分かるように話す。 ・話題を意識しながら、尋ねたり質問に答えたりする。	★			★
1年間のまとめをしよう	・1年間でできるようになったことを見付ける。 ・できるようになったことを伝え合う。	★			★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自分の夢を話そう(10) 話・聞① 言語①⑤⑥	見てきたことを話そう(5) 話・聞① 言語②⑤⑥		様子が分かるように話そう(5) 話・聞① 言語①②⑤⑥			1年間のまとめをしよう(5)
お話を書こう(20) 書①② 言語①③④	様子を書いて確かめよう(20) 書①②③ 言語①③④				思い出して詳しく書こう(20) 書①②③ 言語①③④	
想像を広げて読もう(20) 読①② 言語②③④	大事なところに気を付けて読もう(20) 読①② 言語②③④				場面のつながりを考えて読もう(20) 読① 言語②③④	
第2学年の配当漢字の指導(30) 言語④						
文のつくりについての指導(10) 言語①						

活用できる東京ミニマム 段階的な指導の内容	主な学習活動	備考
・経験したことのある話題について、自分の考えをもつことができる。【話・聞】	・春を感じさせる言葉を見付ける。 ・見付けた言葉を相手に分かるように話す。	1対1 1対多数
・自分の考えの中から伝えたい事柄を選び、話すことができる。【話・聞】 ・主語にあたる部分と述語に当たる部分を互に対応させて話すことができる。【言語】	・見つけた話題についてお話メモを作る。 ・お話を開き、みんなの前で話す。	1対1 グループ
・分からない点はないか、気をつけて聞くことができる。【話・聞】 ・かわるがわる話し、分からないことをたずねたり、答えたりできる。【話・聞】	・自分の夢を相手分かるように話す。 ・話している夢が、どのような夢か落とさずに聞く。	グループ
・自分の考えの中から伝えたい事柄を選び、話すことができる。【話・聞】	・見てきた事柄を、相手に分かるように話す。	1対複数
・自分の考えの中から伝えたい事柄を選び、話すことができる。【話・聞】 ・分からない点はないか、気を付けて聞くことができる。【話・聞】	・様子を表す言葉を見付ける。 ・事柄の様子を相手分かるように、順序を考えて話す。 ・詳しく知りたいことは尋ねる。	1対1 グループ
・かわるがわる話し、分からないことをたずねたり、答えたりできる。【話・聞】	・1年間でできるようになったことを見付ける。	1対多数

イ 指導事例

第2学年 単元名 「みんなの前で話そう！」

1 単元名 「みんなの前で話そう！」

2 単元の目標

- 経験をもとに、楽しく話したり、友達の話に興味をもって聞いたりする。
- 自分の伝えたいことを選び、順序よく話す。
- 話を受けとめながら聞いたり、感想を伝えたりする。

3 評価規準

- 進んで話そうとしている。友達の話を興味をもって聞こうとしている。（関心・意欲・態度）
- 相手に分かるように話している。相手の話を聞き、質問したり感想を言ったりしている。（話す・聞く能力）
- 言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付く。（言語についての知識・理解・技能）

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【話すこと・聞くこと】「話題をとらえて話し合う力」を育てる段階的な指導

○自分の考えの中から伝えたい事柄を選び、話すことができるよう指導する。

「話題をとらえて話し合う力」の段階的な指導を活用し、「自分の考えをもつ」ことや「伝えたい事柄を選び話すこと」など児童に身に付けさせる力を明確にする。そのため、本単元では、児童が、「自分の考えをもつ」ことや、「伝えたい事柄を選ぶ」ことができているかどうかについて確かめ、支援を行うようにする。

5 指導計画（全4時間）

次 時	主 な 学 習 活 動	東 京 ミ ニ マ ム と の 関 連	
第 一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつ。 ・秋に関係するものを挙げ、活動内容を例示する。 ・自分の挑戦したいものを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な話題をたくさん例示し、興味・関心を高める <p>「経験したことのある話題について、自分の考えをもつことができる。(P15)」と関連する。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・お話メモを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の取り組みをよく思い出させ、シートに書かせる。 <p>「自分の考えの中から伝えたい事柄を選ぶ (P15)」と関連する。</p>
第 二 次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前での話し方を学び、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話のモデルを教師が見せる。
	4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞く時のポイントを確認させる。 ・質問の仕方（話形）をモデルで教師が示す。 <p>「分からない点はないか、気を付けて聞くことができる。(P15)」と関連する。</p>

6 本時の学習指導

(1) ねらい

- ・経験したことを順序よく話す。
- ・興味をもって友達の話の聞き、質問や感想を伝える。

(2) 展開

主な学習活動・予想される児童の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">みんなの前で話してみよう！</div> <p>2 みんなの前での話し方を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで、一人ずつ話す。 ・聞き手は、質問したり、感想を述べたりする。 <p>3 教師のモデルと指人形を使って、よい聞き手の聞き方と、質問の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うなずきやあいづちを打ちながら聞く。 ・もっと知りたいことを質問する。 ・自分も経験があったことを感想で述べる。 <p>4 グループで、話を聞き合い、感想を述べ合う。</p> <p><話題例> ドングリを使った工作</p> <p><質問や感想の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作る時、難しかったのはどこですか？ ・ドングリゴマを作るときに工夫したことはありますか？ ・私も、お父さんとドングリゴマを作ったことがあります。 ・私は、ヤジロベエを作ったことがあります。 <p>5 本時を振り返り、学習の感想を述べ合う。</p> <p><児童の反応例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん話ができよかった。 ・友達がうなずきながら聞いてくれてうれしかった。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【教師が示すモデルについて】</p> <p>ポイント</p> <p>教師がみんなの前で話しているときに、動物の指人形がうなずいたり、質問したりするモデルを示す。</p> <p>A：私は、落ち葉を使って工作をしました。</p> <p>「うん、うん」「へー」</p> <p>A：落ち葉でウサギを作りました…</p> <p>B：どうやって、ウサギの目を付けたのですか？</p> <p>A：小さい実を拾って、ボンドで付けました。</p> <p>B：私も、落ち葉でキツネを作ったことがあります。</p> <p>C：私も今度、落ち葉で動物を作ってみたいです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【話を聞きあう際の支援について】</p> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の前で、うまく話すことができない児童には、お話メモをもう一度見ることが助言する。 ・雰囲気固いグループには、あいづちを打ちながら聞くよう助言する。 ・どう質問してよいか分からない児童には、質問の観点や、モデルを振り返るよう助言する。 ・話し手が、作品などを提示したり、立つ所に机を置いたりして、安心して話しやすい雰囲気をつくる。 ・話し手と聞き手の距離が、近くなりすぎないように留意する。 </div>

(3) 小学校第3学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (30)	確かめながら話そう(5) 話・聞① 言語①②⑤		進んで話し合おう(5) 話・聞① 言語①⑤⑥	
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (85)	紹介する文を書こう(10) 書①② 言語①④		様子を詳しく書こう(15) 書① 言語①③④	
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (85)	場面の違いを読み取ろう(10) 読① 言語②④		まともに気を付けて読もう(20) 読① 言語②③④	
①文のつくり ②語句 ③文章のつくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (40)			
語句、話し方及び言葉遣いの指導(10) 言語②⑤⑥					

② 指導計画

※ここでは、【書くこと】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
紹介する文章を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じたことを相手が分かるように紹介する文を書く。 紹介する事柄を見付ける。 		★		★
様子を詳しく書こう	<ul style="list-style-type: none"> 知らせたい事柄を集めて書く。 事柄ごとに段落に分け、順序を考えて書く。 		★		★
分かりやすく書こう	<ul style="list-style-type: none"> 友達に伝えたいことを進んで見付け、分かりやすく書こうとする。 友達に伝えたいことを事柄ごとに段落を分けて、事実を正確に書き交流する。 原稿用紙の使い方を知り、書く。 		★		★
説明する文を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 書く必要のある事柄を調べて、集める。 書こうとする事柄の中心を明らかにして、段落をつくって書く。 文章のよいところを見付けたり、間違いを正したりする。 		★		★
場面のつながりを考えて物語を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 想像して物語を作り、場面のつながりに気を付けて書く。 書いた物語を読み、よいところを見付けたり、間違いを正したりする。 		★		★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分かりやすく話そう(5) 話・聞①言語①⑤⑥	インタビューをしよう(5) 話・聞① 言語②⑤⑥			話し合って名前を決めよう(5) 話・聞① 言語①②⑤⑥		まとめ (5)
分かりやすく書こう(20) 書①② 言語①③④	説明する文を書こう(20) 書①②③ 言語①②③④				場面のつながりを考えて物語を書こう(20) 書①②③ 言語①③④	
場面の様子を想像して読もう(20) 読① 言語②③④	段落のつながりを考えて読もう(20) 読① 言語②③④				場面の移り変わりを読み取ろう(15) 読① 言語②③④	
第3学年の配当漢字の指導(20) 言語④						
文のつくり及び文章のつくりについての指導(10) 言語①						

活用できる東京ミニマム 段階的な指導の内容	主な学習活動	備考
<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったり感動したりしたことなどを手がかりに、伝えたい事柄を見付けることができる。【書】 文の構成に注意して、話したり書いたりできる。【言語】 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介する事柄を見付ける。 文と文のつながりに気を付けて、紹介する文章を書く。 	グループ
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 書く順序を考え、段落をつくって書く。 文章を読み合い、感想を伝える。 	学級全体
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 段落は、いくつかの文が集まって一つの内容を表していることが分かる。【言語】 	<ul style="list-style-type: none"> みんなに知らせたいものや事柄を見付ける。 取材メモを作る。 メモを基に段落をつくって書く。 紹介文を読み合い、感想を伝える。 	1対1 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 書こうとする中心について考え、段落をつくって書く。 文章を読み合い、よいところを見つけたり、間違いを正したりする。 	1対1 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとに想像した物語のあらすじを考える。 場面のつながりを考えて、物語を書く。 物語を読み合い、感想を伝え合う。 	グループ 学級全体

イ 指導事例

第3学年 単元名 「分かりやすく書こう」

1 単元名 「分かりやすく書こう」

2 単元の目標

- ・友達に伝えたいことを進んで見付け、分かりやすく書こうとする。
- ・友達に伝えたいことを事柄ごとに段落を分けて書き、交流する。
- ・原稿用紙の使い方を知り、書く。

3 評価規準

- 友達に伝えたいことを進んで見付け、分かりやすく書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- 事柄ごとに段落に分けて書いている。(書く能力)
- 句読点を適切に打ち、段落の始めや会話の部分は行を改めて書いている。(言語についての知識・理解・技能)

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【書くこと】「文章を組み立てる力」を育てる段階的な指導

○いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができるよう指導する。

「文章を組み立てる力」を身に付けさせるために、伝える相手を意識して文と文をつなげることを考えさせたい。そのため、本単元では、身近な話題の事例文を提示し、文と文をつなげる文章の組み立て方について考える活動を取り入れる。

児童には、相手にどのようなことを伝えたいのかを明確にさせ、書く事柄のまとまりを意識しながら、文と文をつなげて段落をつくっていくことができるよう支援する。

5 指導計画 (全9時間)

次 時	主 な 学 習 活 動	東 京 ミ ニ マ ム と の 関 連
第 一 次	1 「発見カード」を読み、学習の見通しをもつ。 ・課題の確認(紹介文を書く) 学習計画の確認	☆書く必然性・目的意識・相手意識をもたせ、書く意欲を高める。 「実際に見たことや聞いたことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。(P17)」と関連する。
第 二 次	⑦ 1 「おもしろいな」「みんなに知らせたいな」と思 いのをさがして、取材メモを書く。 ・取材メモの書き方を知る。[取材] (取材活動は、宿題などで行う。) 2 事例の提示 [構成] ・どこの段落に、どの取材メモが使われているか探す。 ・「始め、中、終わり」の構成を知る。 ・「中」が3つある。 ・全部で5つの段落で書くことを知る。 3 段落ごとに短冊カードの色を変えて書く。 [構成・記述]	☆取材メモの取り方の事例を提示し取材メモの取り方について考える。 「疑問に思ったことや、感動したことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。(P17)」と関連する。 ☆取材メモを基に書いた文章の事例を提示して、取材メモが実際の文章にどう生かされているかを知る。 「段落は、いくつかの文が集まって一つの内容を表していることが分かる。(P24)」と関連する。 ☆書く事柄のまとまりを意識しながら、自分の取材メモをどの色の短冊カードに書くのか整理する。

第二次	⑦ 4 メモから文を書く。〔構成・記述〕 ・主語と述語、修飾語の関係に注意して書く。 5 見直し〔推敲〕（見直すポイントの観点を確認する。） ・学習した漢字など、字の間違いはないか。 ・カードの色と内容は合っているか。 ・句読点についてはいるか。 ○原稿用紙の使い方 〔言語事項の確認：表記〕 題名、名前、句読点、拗音、促音、「」 段落の改行、一文字下げて書くこと ○短冊カードをつなげて、原稿用紙に書く	☆短冊カードにいくつかの文をつなげながら文章を書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。（p18）」と関連する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 言語事項〔表記〕 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書く。 </div>
第三次	1 交流 ○読み合って、感想を伝える（付箋） ・「おもしろさが伝わったのはなぜか」「よく分かったのはなぜか」考えて友達の文章のよかったところを伝える。 ・学習の振り返り	（評価） ○段落が、いくつかの文が集まって一つの内容を表しているか。 ○いくつかの文をつなげ、段落をつくって書いているか。

6 本時の学習指導（3/9）

(1) ねらい

自分の伝えたい事柄を分かりやすく書くために、取材メモを短冊カードの色ごとに整理して、内容のまとまりに気を付けながら文と文をつなげて書く。

(2) 展開

主な学習活動・予想される児童の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 発見したこと(見たことや聞いたこと)を、整理して、段落に分けて書こう。 </div> <p>2. 事例文を読み、気付いたことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めに、何を発見したか書いてある。 ・5つの段落に分けて書いてある。 ・取材メモを、そのまま写していない。 ・取材メモを文にしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 〈事例文〉 第1段落 発見したこと(白) (メモ)・いつ、どこで、何をみつけたか。 第2段落 知らせたいと思った理由(赤) (メモ)・なぜ知らせたいと思ったのか。 第3段落 発見したこと(黄) (メモ)・ようすや、とくちょうについて。 第4段落 発見した場所(青) (メモ)・くわしい場所。 第5段落 勧める文(緑) (メモ)・「みなさんも、ぜひ〇〇してみてください。」など </div> <p>3. 自分の取材メモの内容を確認し、どの色の短冊カードに書くか整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材メモを操作し、段落の数字を付ける。 <p>4. 整理した取材メモを基に、短冊カードに記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材メモを基に、見たことや聞いたこと、感じたことを分けて文を書く。 <p>5. 本時を振り返り、感想を述べあう。</p> <p>〈児童の反応例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落の色に分けて書けてよかった。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 文章を組み立てる力 「いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。」を活用した例 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ポイント取材メモを生かした構成・記述指導 </div> <p>(1) 取材メモを伝えたい事柄ごとに分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」「どこで」「何を」 ・「知らせようと思った理由」 ・「どんなようすだったか」 <p>(2) 分けた取材メモをどの色の短冊カードに書くか決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落の内容を確かめる。 <p>(3) 短冊カードに下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たことを表現する文をつくり、次にその文につなげて感じたことを書くようにして、書く事柄のまとまりを意識させながら段落をつくるようにしていく。 ・読み手にどのようなことを伝えたいのかを明確にして、書く事柄のまとまりを意識させる。 <p>(4) 文のつくりと文章のつくりを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語にあたる部分と述語にあたる部分を互いに対応させて文が書いてあるか確かめる。 ・修飾語を工夫しているか確かめる。 ・段落は、いくつかの文が集まって一つの内容を表しているか確かめる。

(4) 小学校第4学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (30)		メモを取りながら聞こう(5) 話・聞① 言語①②⑤		筋道を立てて話そう(5) 話・聞① 言語①⑤⑥
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (85)		手紙を書こう(10) 書①② 言語①④		係活動報告書を書こう(15) 書①② 言語①③④
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (85)		場面の情景を読み取ろう(10) 読① 言語②④		段落のつながりに注意して読もう(20) 読① 言語②③④
①文のつくり ②語句 ③文章のつくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (40)		語句、話し方及び言葉遣いの指導(10) 言語②⑤⑥		

② 指導計画

※ここでは、【書くこと】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
手紙を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の書き方を理解する。 文と文のつながりに気を付けて、手紙を書く。 		★		★
係活動報告書を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 日常取り組んでいる係活動から報告したいことを見付ける。 内容のまとまりを考えながら文章と文章や段落と段落をつなげて書く。 伝えたい事柄が書けているかどうかを見直す。 		★		★
紹介文を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 本を紹介する文章を書く。 事柄ごとに段落に分け、順序を考えて書く。 		★		★
必要な事柄を選んで書こう	<ul style="list-style-type: none"> 調べて集めた事柄の中から書く必要のあるものを選ぶ。 書こうとする事柄の中心を明らかにして、段落をつくって書く。 文章のよいところを見付けたり、間違いを正したりする。 		★		★
表やグラフを使って書こう	<ul style="list-style-type: none"> 想像して物語を作り、場面のつながりに気を付けて書く。 書いた物語を読み、よいところを見付けたり、間違いを正したりする。 		★		★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
しっかり聞いて伝えよう(5) 話・聞①言語①⑤⑥	見つけた言葉を友達に伝えよう(5) 話・聞① 言語②⑤⑥			宝物をしょうかいしよう(5) 話・聞① 言語①②⑤⑥		1年間のまとめをしよう(5)
文を書いて知らせよう(20) 書③ 言語①③④	思ったことを書いて知らせよう(20) 書①②③ 言語①③④				分かりやすく書こう(20) 書①②③ 言語①③④	
場面の様子を想像して読もう(20) 読①② 言語②③④	登場人物の様子を思い浮かべよう(20) 読①② 言語②③④				順序を考えて読もう(20) 読①② 言語②③④	
第4学年の配当漢字の指導(20) 言語④						
文のつくり及び文章のつくりについての指導指導(10) 言語①						

活用できる東京ミニマム	主な学習活動	備考
段階的な指導の内容		
<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったことや、感動したことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙を書くときの決まりや、封筒に宛名を書くときの決まりを知る。 	1対1
<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったことや、感動したことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。【書】 いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 報告する内容について取材してメモを取る。 メモを基に書こうとする中心となる内容を決める。 書こうとする中心が明確になるように段落のつながりに気を付けて書く。 書いた文章を見直し、間違いを正す。 	グループ 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 段落は、いくつかの文が集まって一つの内容を表していることが分かる。【言語】 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介する本を見付ける。 紹介する事柄に合わせて、段落ごとに順序を考えて書く。 紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 	1対1 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 書こうとする中心に気を付けて、段落のつながりを意識して書く。 書いた文章を読み合い、よいところを見付けたり間違いを正したりする。 	グループ 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの文をつなげ、段落をつくって書くことができる。【書】 伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。【書】 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた事柄を表やグラフにまとめる。 表やグラフを分析して、書こうとする内容を明らかにする。 段落のつながりに気を付けて文章を書き、読み合う。 	グループ 学級全体

イ 指導事例

第4学年 単元名 「係活動報告書を書こう」

1 単元名 「係活動報告書を書こう」

2 単元の目標

○日常取り組んでいる係活動から報告したいことを見付け、内容のまとまりを考えながら文章と文章や段落と段落をつなげたり、伝えたい事柄が書けているかを見直したりしながら報告文を書く。

3 評価規準

○日常取り組んでいる係活動を報告することに興味をもち、取材したり、報告文を書いたり、見直したりしている。(関心・意欲・態度)

○伝えたいことを決め、組み立てを考えて、報告文を書いたり、見直したりしている。(書く能力)

○送り仮名に注して書き、また、活用についての意識をもつ。(言語についての知識・理解・技能)

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【書くこと】「文章を見直す力」を育てる段階的な指導

○伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができるよう指導する。

児童には、書いた文章を見直すことについて、具体的な視点をもって取り組ませるようにしたい。そのため、単元の目標の「伝えたい事柄が書けているかを見直し」について、「文章を見直す力」と関連させて明確にしている。

本時の学習活動では、「文章を見直す力」の段階的な指導「伝えたい事柄が書けているか見直し、間違いを正すことができる。」と「語句」の段階的な指導「語句の意味や使い方を調べることができる。」とを関連付けて支援し、児童に文章を見直す視点を具体的に示すことができるようにする。

また、児童の学習の状況に応じて段階的な指導に示された「第1学年及び第2学年」の内容を生かして支援をする。

5 指導計画(全13時間)

次時	主な学習活動	東京ミニマムとの関連
第一次	1 ○学習内容や学習の流れを知る。 2 ○日常取り組んでいる係活動の中から、グループごとに報告したいことを選び、内容を考え分担を決める。 「疑問に思ったことや感動したことなどを手がかりにして、伝えたい事柄を見付けることができる。(P17)」と関連する。	☆日常の係活動から、疑問に思うことや、感動したことなどを想起させ、書く事柄を見付ける手がかりにさせる。
第二次	3 ○教科書の例を参考にして、取材メモの書き方を学ぶ。 ○分担ごとに取材してメモをとる。 11 ○取材メモを持ち寄り、中心となる内容や順序を決め、組み立てメモを書く。 ○報告文の例を参考にして、報告文の書き方について理解する。 ○分担ごとに報告文を書く。(本時) ○各自が書いた報告文をまとめ、一つの報告文にする。 ○書き上げた報告文を読み返し、見直す。	☆組み立てメモを活用し、報告文の順序を考えさせる。 ☆組み立てメモから、いくつかの文が書けることに気付かせる。 「文章を組み立てる力(P18)」「文章のつくり(P24)」と関連する。

第三次	12	○他のグループと報告文を読み合い、感想や意見を交換する。	○自分の伝えたいことが書けているかどうか見直し、間違いは直させる。 ○語句の意味や使い方を確かめさせる。
	13	「文章を見直す力(P19)」「語句(P25)」と関連する。	

6 本時の学習指導

(1) ねらい

伝えようとする事柄の中心を明確にしながら、文章と文章や段落と段落の続き方に注意して報告文を書く。

(2) 展開

主な学習活動・予想される児童の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1 報告文の書き方について振り返った後、本時の学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>係活動報告書を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の流れ（児童提示用） ①組み立てを考える。 ②報告文を書く。 ③見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「小見出しを付けることで内容が分かりやすくなっている。」「読み手の興味をひく書き出しの工夫をしている。」など、報告文の書き方を確認する。 ・児童が主体的に本時の学習を進められるよう学習の流れを確認する。 ・必要に応じて写真や図、表を活用することで相手に内容が伝わりやすいことを助言する。
<p>2 自分の分担した部分についての報告文の組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えようとする事柄が箇条書きされたカード（赤）とそのことについて詳しく調べたことが書かれたカード（青）を並べ替えながら報告文の組み立てを考える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆組み立てがうまく考えられない児童には、以下の支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①赤カードの中で伝えたいことの順位付けをし、内容を選択する。 ②赤カードにかかわりが薄い青カードははずす。 ③残ったカードで書く順序を考える。 <p>→文章の組立を考えさせる工夫</p> </div>
<p>3 自分が考えた組み立てにそって報告文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容のまとまりを考え、順序を示す言葉を使いながら段落と段落をつなげさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆主語にあたる部分と述語にあたる部分を互に対応させて文を書くように注意を促す。</p> <p>→「文のつくり(P23)」との関連を図った支援</p> </div>
<p>4 書き上げた報告文を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の分担した部分の組み立てメモを見直した後、伝えたい事柄とかかわりのない事柄が書かれていないか見直す。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆「伝えたい事柄が書けているかどうか」「語句の意味や使い方は正しいかどうか」など、見直す視点を明確に示す。</p> <p>→文章を見直す工夫・「語句(P25)」との関連</p> </div>

(5) 小学校第5学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (25)		よりよくインタビューをしよう(5) 話・聞① 言語①②⑤	意見を話し合って考えよう(5) 話・聞① 言語①⑤⑥	
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (55)		依頼やお礼の手紙を書こう(10) 書①② 言語①④	調べたことを整理して書こう(15) 書①② 言語①③④	
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (55)		場面の移り変わりを読み取ろう(10) 読① 言語②④	要旨をとらえて読もう(10) 読① 言語②③④	
①文のつくり ②語句 ③文章のつくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (40)		
			語句、話し方及び言葉遣いの指導 (10) 言語②⑤⑥		

② 指導計画

※ここでは、【読むこと】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
場面の移り変わりを読み取ろう	・登場人物の気持ちの変化から、場面の移り変わりを読み取る。			★	★
要旨をとらえて読もう	・筆者の伝えたい事柄を読み取る。 ・筆者の考えに対する自分の考えをもつ。 ・文章の構成について理解する。			★	★
登場人物の人柄を読み取ろう	・登場人物の人柄や情景を叙述に即して詠む。 ・様々な文章構成があることを理解する。			★	★
構成に着目して読もう	・目的に応じて文章の構成に着目して読み取る。 ・目的に合わせて要旨をとらえる。			★	★
登場人物の心情の変化を読み取り、紹介ポスターを書こう	・登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む。			★	★
場面の移り変わりを読み取ろう	・登場人物の気持ちの変化から、場面の移り変わりを読み取る。			★	★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
意見を整理しながら話し合おう(5) 話・聞①言語①⑤⑥		場に合った言葉で話そう(5) 話・聞① 言語②⑤⑥		話し合って考えをまとめよう(5) 話・聞① 言語①②⑤⑥		
事実と意見を区別して書こう(10) 書① 言語①③④		書いた文をよりよくしよう(10) 書①②③ 言語①②③④		写真から物語を書こう(10) 書①②③ 言語①③④		
構成に着目して読もう(10) 読①② 言語②③④		登場人物の心情の変化を読み取り、紹介ポスターを書こう(10) 読①言語②③④		登場人物の行動のつながりを考えて読もう(15) 読①② 言語②③④		
第5学年の配当漢字の指導(20) 言語④						
文のつくり及び文章のつくりについての指導(10) 言語①						

活用できる東京ミニマム	主な学習活動	備考
段階的な指導の内容		
・人物の行動や心情の変化をとらえることができる。 【読】	・主人公の気持ちの変化をとらえ、それを手がかりにして場面の移り変わりを読み取る。	1対1 学級全体
・筆者の考えとその理由をとらえることができる。【読】 ・文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】 ・文章はいくつかの段落がつながってできていることがわかる。【言語】	・文章全体の構成をつかみ、要旨をとらえる。 ・疑問→答えという文章構成について理解する。	1対1 学級全体
・人物の行動や心情の変化をとらえることができる。【読】 ・文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】 ・文章はいくつかの段落がつながってできていることがわかる。【言語】	・登場人物の会話や行動から、人柄について読み取る。 ・文章の構成をとらえ、様々な文章構成があることを理解する。	グループ 学級全体
・筆者の考えとその理由をとらえることができる。【読】 ・文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】	・文章の内容をおおまかにとらえる。 ・文章の構成に着目して読み、書かれている内容を整理する。 ・筆者が伝えたい事柄をとらえる。	1対1 学級全体
・人物の行動や心情の変化をとらえることができる。【読】 ・文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】	・物語の展開を読み取る。 ・登場人物の行動をとらえ、心情の変化を読み取る。 ・人物を紹介するポスターを作る。	グループ 学級全体
・人物の行動や心情の変化をとらえることができる。【読】 ・文章はいくつかの段落がつながってできていることが分かる。【言語】	・作品を読んで登場人物の心の動きについて考え、感想を交流する。 ・主人公の気持ちの変化をとらえ、それを手がかりにして場面の移り変わりを読み取る。	1対1 学級全体

イ 指導事例

第5学年 単元名 「登場人物の心情の変化を読み取り、紹介ポスターを書こう」

1 単元名 「登場人物の心情の変化を読み取り、紹介ポスターを書こう」

2 単元の目標

○登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む。

3 評価規準

○作品の展開のおもしろさをとらえ、人物の心情について読もうとしている。（関心・意欲・態度）

○登場人物の関係や心情、場面についての描写をとらえて読んでいる。（読む能力）

○文章の中での語句と語句との関係を理解する。（言語についての知識・理解・技能）

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【読むこと】「大体の意味をとらえる力」を育てる段階的な指導

○人物の行動や心情の変化をとらえることができるよう指導する。

児童には、作品全体から人物の変化について考えさせたい。そのため、本単元では「人物の行動に基づいて場面の様子をとらえる」ために、大造じいさんの行動に着目し、場面ごとの行動の違いについて考えさせる。登場人物の行動を読み取ることで、場面ごとの違いを押しえたり、その意味を考えさせることで、登場人物の心情を読み取らせたりする。

5 指導計画（全10時間）

次時	主な学習活動	東京ミニマムとの関連
第1次	1 ○「大造じいさんとがん」を通読し初発の感想を書く。 2 ○作品紹介ポスターを作ることを知り、学習の見通しをもつ。	☆大造じいさんと残雪の行動に着目して感想を書くように促す。
第2次	3 ○大造じいさんと残雪のかけひきをとらえ、物語の展開を読み取る。 4 ○場面ごとの大造じいさんの行動をとらえ、 5 心情の変化を読み取る。 6 7 ○大造じいさんの生き方についての自分の考えをまとめる。	☆大造じいさんと残雪の行動を比べながら読むことにより、物語の展開のおもしろさを読み取ることができるようにする。 ☆大造じいさんの行動が、場面により、どのように変化しているかおさえる。 ☆大造じいさんの行動の意味を残雪の行動と関連付けて考え、大造じいさんの心情の変化を想像できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「人物の行動に基づいて場面の様子をとらえることができる。(P21)」と関連する。</div>
第3次	8 ○自分で選んだ作品を読み、展開のおもしろ 9 さや登場人物の行動から読み取ることで 10 る心情の変化をポスターに書いて紹介する。	○「大造じいさんとがん」で学習した力を生かし、登場人物の行動をとらえることにより、物語の展開や心情を読み取り表現する。

6 本時の学習指導（6／10）

(1) ねらい

大造じいさんの行動の変化をとらえ、心情の変化を読み取る。

(2) 展開

主な学習活動・予想される児童の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1 学習する場면을音読する。</p> <div data-bbox="272 479 807 573" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大造じいさんの行動を読み取り、心情を想像しよう</p> </div> <p>2 大造じいさんの行動にサイドラインを引く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大造じいさんが主語となっている文に気を付けさせる。 ・述語から大造じいさんの行動を見付けさせるようにする。 <p>3 これまでの大造じいさんの行動と比べて、注目したい行動を選び、その理由を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引いた言葉を比べさせる。 <p>4 どの行動に注目したか、選んだ理由を添えて、グループで発表し合う。</p> <p>5 各グループで挙げた注目すべき大造じいさんの行動を確かめ、その意味について全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの行動と比べて、確かめさせる。 ・変わった行動と、変わらない行動とを整理させる。 <p>6 大造じいさんの心情をノートに書く。</p>	<div data-bbox="858 439 1369 1124" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【行動を比べることについて】</p> <p>ポイント</p> <p>前の場面の行動が分かるサイドラインと本時に引いたサイドラインを線でつなげ比較させる。</p> <p>T: これまでの大造じいさんの行動と比べられるように、サイドラインをつなげましょう。</p> <p>A: 前の場面と比べると、この行動が一番違うように感じるな。</p> <p>T: どうして、一番違うと感じたのか、その理由を書くことはできるかな？</p> <p>A: これまでと違って、初めて出てくる行動だからかな。今までは、残雪を倒すことしか考えていなかったもの。</p> </div> <div data-bbox="858 1160 1369 1921" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【グループで発表し合うことについて】</p> <p>ポイント</p> <p>「話すこと・聞くこと」の学習を生かし、読み取ったことを交流する。</p> <p>T: グループで学級全体で考えた方がよいと思う大造じいさんの行動を決めましょう。</p> <p>A: わたしは、前の場面とこの行動が一番違うと思うので、この行動がいいと思います。</p> <p>B: そうすると、これまでと同じ行動については、考えなくてもいいのかな。</p> <p>C: 本当に同じ行動なのか、確かめてみてもいいかもしれないよ。</p> <p>A: 今、これまでと違う行動と、同じ行動を確かめてみようという意見が出ているけれど、どうしたらいいかしら。……</p> </div>

(6) 小学校第6学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (25)	学級全体で話し合おう(5) 話・聞① 言語①②⑤		読書紹介をしよう(5) 話・聞① 言語①⑤⑥	
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (55)	相手を意識して書こう(10) 書①② 言語①④		構成を工夫して書こう(15) 書①② 言語①③④	
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (55)	登場人物の心情を読み取るう(10) 読① 言語②④		筆者の訴えに対する自分の考えをもとう(10) 読① 言語②③④	
①文のづくり ②語句 ③文章のづくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (40)			
語句、話し方及び言葉遣いの指導 (10) 言語②⑤⑥					

② 指導計画

※ここでは、【読むこと】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
登場人物の心情を読み取るう	・登場人物の心情を叙述に即して読み取る。			★	★
筆者の訴えに対する自分の考えをもとう	・筆者の伝えたい事柄を読み取る。 ・筆者の訴えに対する自分の考えをもつ。 ・文章の構成について理解する。			★	★
登場人物の心情の変化を読み取るう	・叙述に即して、登場人物の心情や性格、考え方などを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読む。 ・文章の構成など表現の工夫についてその効果をとらえる。			★	★
情景を豊かに想像しよう	・情景を叙述に即して豊かに想像しながら読む。 ・目的に合わせて要旨をとらえる。			★	★
筆者の考えをまとめ、自分の考えを発信しよう	・叙述に即して筆者の考えをまとめる。 ・書かれている内容に対して自分の考えをもつ。			★	★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
資料を工夫してスピーチをしよう(5) 話・聞①言語①⑤⑥	構成を工夫して話そう(5) 話・聞① 言語②⑤⑥	根拠を明確にして話し合おう(5) 話・聞① 言語①②⑤⑥				
目的に合わせて書こう(10) 書① 言語①③④	説明の仕方を工夫して書こう(10) 書①②③ 言語①②③④	学習したことを生かして書こう(10) 書①②③ 言語①③④				
登場人物の心情の変化を読み取ろう(10) 読① 言語②③④	情景を豊かに想像しよう(10) 読①② 言語②③④	筆者の考えまとめ、自分の考えを発信しよう(15) 読①② 言語②③④				
第6学年の配当漢字の指導(20) 言語④						
文のつくり及び文章のつくりについての指導(10) 言語①						

活用できる東京ミニマム	主な学習活動	備考
段階的な指導の内容		
<ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や心情の変化をとらえることができる。【読】 文章はいくつかの段落がつながってできていることが分かる。【言語】 	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちの変化をとらえ、それを手がかりにして場面の移り変わりを読み取る。 	1対1 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えとその理由をとらえることができる。【読】 文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】 文章はいくつかの段落がつながってできていることが分かる。【言語】 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容をおおまかにとらえる。 文章全体の構成をつかみ、要旨をとらえる。 疑問→答えという文章構成について理解する。 	1対1 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や心情の変化をとらえることができる。【読】 文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】 文章はいくつかの段落がつながってできていることが分かる。【言語】 	<ul style="list-style-type: none"> 作品全文を読み、心に残る場面について話し合う。 登場人物の心情が分かる語句から、心情の変化を読み取る。 文章の構成をとらえ、様々な文章構成があることを理解する。 	グループ 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> 人物の行動や心情の変化をとらえることができる。【読】 文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容をおおまかにとらえる。 場面ごとに情景に着目し、豊かに想像しながら読む。 文章表現のよさをとらえる。 	1対1 学級全体
<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えとその理由をとらえることができる。【読】 文章を読み、理由を明らかにして自分の考えをもつ。【読】 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み筆者の訴えについて考え、感想を交流する。 叙述に即して筆者の考えをまとめる。 筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、発信する。 	グループ 学級全体

イ 指導事例

第6学年 単元名 「登場人物の心情の変化を読み取ろう」

1 単元名 「登場人物の心情の変化を読み取ろう」

2 単元の見目標

○登場人物の心情や場面について、優れた描写を味わいながら読み、自分の感想をもつ。

3 評価規準

○人物の心情を場面と合わせて読み、自分なりの感想をもととする。(関心・意欲・態度)

○叙述に即して、登場人物の心情や性格、考え方などを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読む。(読む能力)

○比喩や体言止めなどの表現の工夫についてその効果をとらえる。(言語についての知識・理解・技能)

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【読むこと】「大体の意味をとらえる力」を育てる段階的な指導

○人物の行動や心情の変化をとらえることができるよう指導する。

単元の見目標にある「登場人物の心情や場面について、優れた描写を味わいながら読む」ために、「大体の意味をとらえる力」の段階的な指導「人物の行動や心情の変化をとらえることができる。」を参考にして、登場人物の行動や場面の様子などから、心情を想像させる。そのため、本単元では、「大体の意味をとらえる力」の指導例に示されているような、叙述に即し、登場人物の行動や場面の様子を整理する学習活動を繰り返し取り入れ、児童が、無理なく人物の行動や心情の変化をとらえられるように支援していく。

5 指導計画 (全5時間)

次 時	主 な 学 習 活 動	東 京 ミ ニ マ ム と の 関 連
第 一 次	1 <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを知り、学習の見通しをもつ。 ・「川とノリオ」を読み、作品の印象や心に残った場面を紹介し合う。 ・新出漢字や読み替え漢字を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残った場面が整理できない児童には、主人公であるノリオの行動に着目させる。 <p>「人物の行動にもとづいて場面の様子をとらえることができる。(P21)」と関連する。</p>
第 二 次	2 <ul style="list-style-type: none"> ・戦争中の子供たちの生活の様子を表す語句を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない言葉をノートに書き出し、その意味や使い方を調べる。 <p>「語句の意味や使い方を調べることができる。(P25)」と関連する。</p>
③ 本 時	4 <ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに好きな表現や気になる表現、分かりにくい表現を発表し、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情の変化を、場面の様子を基にしてとらえるようにする。 <p>「人物の行動に基づいて場面の様子をとらえることができる。(P21)」と関連する。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとに特色ある表現をおさえ、登場人物の心情や場面の様子について話し合い、読み深める。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある表現とその効果について考える。 ・作品を音読する。 ・音読交流会を開く 	

6 本時の学習指導

(1) ねらい

「夏」から「おぼんの夜（八月十五日）」の場面までの表現を基に、登場人物の行動や心情の変化をとらえる。

(2) 展開

主な学習活動・予想される児童の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1 「夏」から「おぼんの夜（八月十五日）」の場面までを音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ノリオの気持ちの変化を想像しよう。</div> <p>2 「夏」の場面について、ノリオの行動や情景描写からノリオの心情の変化をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリオが見た白い筋って、何のことだろう。 ・空の不思議な雲と母ちゃんの横顔をノリオが見比べたのはどうしてだろう。 <p>3 「八月六日」の場面について、ノリオの行動や情景描写からノリオの心情をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おそろしそうな、人々のささやきの声。」って書いてあるから、ノリオは不安な気持ちだったんじゃないかな。 <p>4 「おぼんの夜（八月十五日）」の場面について、本文の叙述を基にじいちゃんの心情をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいちゃんは、とても悲しそう。 ・じいちゃんは、くやしそうにも見える。 <p>5 本時の学習を生かし、「夏」から「おぼんの夜（八月十五日）」の場面までを音読する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大体の意味をとらえる力</p> <p>「人物の行動や心情の変化をとらえることができる」を活用した例</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ポイント登場人物の心情の変化を人物の様子や行動、情景描写を基にしてとらえる。</p> <p>☆前時に学習した「また早春」の場面からのノリオの心情の変化に着目させる。</p> <p>→変化をとらえさせる工夫</p> <p>T：「夏」の場面では、ノリオはどのような気持ちだったでしょう。</p> <p>C：悲しい気持ちだったと思います。</p> <p>C：不安な気持ちもあったと思います。</p> <p>T：それはどのようなところから分かりますか。</p> <p>C：ノリオが「ぐずって泣いた。」というところです。</p> <p>T：「夏」の前の「また早春」の場面では、ノリオはどのような気持ちでしたか。</p> <p>C：幸せそうでした。</p> <p>C：お母ちゃんと一緒にうれしかったと思います。</p> <p>T：それはどのようなところから分かりますか。</p> <p>C：「ノリオは小さい神様だった。金色の光に包まれた、幸せな二才の神様だった。」というところです。</p> <p>T：「また早春」の場面から「夏」の場面にかけて、ノリオの気持ちが大きく変わったことが分かりましたね。</p> </div>

(7) 中学校第1学年

ア 年間指導計画例

① 単元の配列

*話・聞は「話すこと・聞くこと」領域、書は「書くこと」領域、

指導基準（東京ミニマム）	領域等（時数）	4月	5月	6月	7月
①話題をとらえて話し合う力	話すこと 聞くこと (15)	構成を工夫して話そう (6) 話・聞① 言語②⑤⑥			
①書く事柄を明らかにする力 ②文章を組み立てる力 ③文章を見直す力	書くこと (35)	情報を選択して書こう (6) 書①②③ 言語①②			
①大体の意味をとらえる力 ②文章を読み、考える力	読むこと (55)	全体に聞こえるように読もう(7) 読① 言語①②⑤	文学的・説明的文章を読む(10) 読① 言語①②③		
①文のつくり ②語句 ③文章のつくり	④文字 ⑤話し方 ⑥言葉遣い 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (15)	話し言葉・書き言葉、言葉の単位、漢字の指導 (12) 言語①②③④⑤⑥			

② 指導計画

※ここでは、【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】領域に関連する単元のみ例示している。

単元名	目標	活用できる東京ミニマム			
		話・聞	書	読	言
漢字の成り立ち	・「表音文字」「表意文字」を理解できる。 ・四種類の漢字の主な成り立ちについて理解することができ、分別できる。				★
漢字の組立と部首	・漢字の構成要素である「へん・つくり・かんむり・あし・たれ・によろ」を理解し、漢和辞典を活用できる。				★
言葉の単位	・言葉の単位である「単語・文節・文」について理解し、一文を文節・単語に分けることができる。 ・「文章・段落」について理解できる。				★
文の構成	・主語と述語の関係について理解し、一文の中の主語と述語に当たる文節をそれぞれ見見付けることができる。 ・修飾語と被修飾語との関係について理解し、一文の中の修飾・被修飾の関係を見付けることができる。			★	★
話し言葉と書き言葉	・話し言葉と書き言葉の違いを理解できる。 ・話し言葉と書き言葉の特徴に応じて使い分けることができる。	★	★		★
和語・漢語・外来語・混種語	・和語、漢語、外来語、混種語を理解できる。		★		★

読は「読むこと」領域、言語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を示しています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> グループディスカッションをしよう (5) 話・聞① 言語②⑤⑥ </div>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> レポートを書こう(5) 書①②③ 言語①②③④ </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 手紙を書こう(3) 書①②③ 言語①②③④ </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 段落に着目して読もう(7) 読① 言語①② </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 文学的・説明的文章を読む(20) 読① 言語①②③ </div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 話し言葉・書き言葉、言葉の単位、和語・漢語・外来語、漢字の指導 (20) 言語①②③④⑤⑥ </div>						

活用できる東京ミニマム	主な学習活動	備考
段階的な指導の内容 ・漢字を調べることが、習慣として身に付いている。 【言語】	・漢字を、象形・指示・会意・形声に分類する。	
・漢字を調べることが、習慣として身に付いている。 【言語】	・未習の漢字を構成要素から類推する。 ・同じへんやかんむりをもつ漢字を既知知識や漢和辞典を用いて多数挙げる。 ・学習した漢字を用いて短文を作る。	
・文章によって、様々な段落のつながり方が分かる。 【言語】	・一文を文節に分ける。 ・文節を単語に分ける。 ・指示語や接続語に着目して、段落を意味のまとまりでグループ化する。	
・文の成分を理解し、説明的文章の読解に活用する。 【言語】	・一文の中の主語と述語や修飾語と被修飾語の照応関係を見付ける。 ・説明的文章の述語に着目し、意見を表明する文と事実を表す文を区別する。	
・話し言葉と書き言葉の違いについて理解し、適切に使って話すことができる。 【言語】	・話し言葉と書き言葉の違いや特徴を文章等から発見する。 ・書かれた文章を話し言葉に変えて話す。	
・複数の語句を関連付けて語いとして拡充していく。 【言語】	・新聞等を分析し、和語、漢語、外来語、混種語に分類する。 ・既有的語句を意味等の観点からグループ化し、言葉の関係図を作る。	

イ 指導事例

中学校第1学年 単元名 「文の成分・連文節」

1 単元名 「文の成分・連文節」

2 単元の目標

- 文節・連文節の働きについて学び理解する。
- 文節等の知識を正確な読み取りや表現活動に生かすことができる。

3 評価規準

- 長文における筆者の意見や話し合いにおける話し手の主張を文の成分の理解を基に的確にかもうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 自分の考えを发表或し相手の考えを正確に聞き取ったりするために、文節・連文節の働きについて理解している。 (話す・聞く能力)
- 推敲や練習問題を通して、自分の考え及び意見を支える事実を正確に伝えられる。 (話す・聞く能力)
- 資料文や練習問題における文の成分に着目し、筆者の主張及び根拠を的確に読み取ることができる。 (読む能力)
- 長文における文の構造を説明できる。(言語についての知識・理解・技能)

4 東京ミニマムを踏まえた指導のポイント

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】「文のつくり」についての段階的な指導
 ○文のつくりについての知識・理解・技能を繰り返し確認し、話したり書いたりすることができるよう指導する。

「文のつくり」の理解や活用する力を培うために、小学校段階における「文の成分」に関連するつまずきも含めた学習実態を把握し、生徒に既習事項を想起させる。そのため、本単元では、文の成分を学習する場面において、小学校で身に付けた知識・理解・技能を想起させ、主語と述語との関係を確認させたり、説明的文章読む場面において、述語に着目させて筆者の意見と事実とを区別させたりするなど「文章を見直す力」に応用する。

5 指導計画 (全4時間)

次時	主な学習活動	東京ミニマムと関連
第1本 次時	1 主語と述語との関係の説明を聞き、理解を確認する。 2 主語と述語との関係の理解を深める。 3 理解度チェック問題を解く	☆「文のつくり」を確実に理解し主述の関係を正しく説明できるようにする。 ☆迷いやすい主述関係の文を題材に「文章を見直す力」を付けるとともに長文を例を使い、「大体の意味をとらえる力」を付ける。 「読む人にとって分かりやすく表現されているかどうか。(P19)」と関連する。

第二次	2	1 修飾・被修飾語の関係の説明を聞き、理解を確認する。	☆修飾・被修飾の関係を正しく説明できるようにする。 ☆修飾語・被修飾語が離れている文章などを題材に「文章を見直す力」を付けるとともに、長文を例に用い、「大体の意味をとらえる力」を身に付けさせる。
		2 修飾・被修飾語の関係の説明及び理解を深める。	
		3 その他の文の成分（接続語・独立語）を理解する。	
		4 理解度チェック問題を解く。	

6 本時の学習指導

(1) ねらい

- ・文の成分の理解（主語・述語及び主述の関係）を、お互いの理解を確かめながら深められる。
- ・文の成分を話し合い活動や長文の読み取りにおいて実践的に学び、正しく筆者の主張や話し手の考えをつかむことができる。

(2) 展開

主な学習活動・予想される生徒の反応	☆東京ミニマムとの関連
<p>1 本時の学習目標・学習内容の確認をする。</p> <p>2 生徒の主述関係の理解の度合いを把握する。</p> <p>3 主述関係の説明及び理解を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・述語を理解し、文中に見付けられるようになる。 ・次に主語を理解し、主語・述語の基本文を理解できる。 ・主述の関係と似ている文例を取り上げ、主述の関係と異なる理由を説明できる。 <p>3 主述関係の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主述関係が分かりにくい短文例及び説明的文章を取り上げ、主述関係を少人数グループで説明し合う。 ・主語とそれに対応する述語から、筆者の意見や主張、それらの基となる事実（根拠）を見付け、説明する。 <p>4 理解度チェック問題を解く。</p>	<p>○『平成20年度児童・生徒の学力向上を図るための調査』問題中の文法問題を使い、「述語」・「主語」を指摘させ正しく指摘できない理由をつかむ。</p> <p>○『平成20年度調査』問題中の文法問題及び他の短文例題を使い、文の成分（主語述語）を理解し、他の人に説明できるようになる。</p> <p>○読み取りの基本となる主述の関係を様々な文種で指摘し説明できるようになる。</p> <p>○主述の関係と紛らわしい文例を使うことにより、主述の関係を確かに理解できるようにする。</p> <p>○ミニマムにおける「文のつくり」中の主述の関係を例題の中で確実に理解し、主述の関係を正しく他人に説明できるようにする。</p> <p>○主述の関係を的確に理解すると、文の内容が素早く読み取れることを体験させる。</p> <p>○主述の関係が複雑な文を題材に「文章を見直す力」を付けるとともに、長めの文を例に用い、その文の「大体の意味をとらえる力」を身に付けさせる。</p>